

小学校の学習は、将来社会人として自立するための基礎となるものです。特に「読むこと」「書くこと」「計算すること」は、欠かすことのできない「生きるための力」です。

学校では、「個に応じた指導」の取組を通して基礎学力を高めるための努力をしていますが、家庭の協力によりさらにその力が何倍にも高められます。学力を伸ばすには、学校での学習とあわせて家庭学習が必要です。そこで、家庭学習の方法をまとめましたので、参考にしてください。子どもたちに「家庭学習の習慣」を身に付けさせるために、ご家庭のご協力をお願いします。

家庭学習のとらえ方 家庭学習



見えない学力

知らず知らず身に付けて学力の素地となります。

- ア 読書は「見えない学力」を高めます。
- イ 国語辞典・漢字辞典その他の事典や図鑑類を身近に置いて調べよう。
- ウ 日本地図・世界地図を身近に置いて調べよう。
- エ 地球儀をテレビの隣に置いて調べよう。
- オ ニュース番組を親子で見ても話しておこう。
- カ 小学生向けの新聞など利用し、新聞を読もう。
- キ 百人一首など詩歌の暗唱をしよう。
- ク 将棋や囲碁など頭を使うゲームをしよう。
- ケ 自然や生き物とふれあい、くわしく観察しよう。
- コ 家の仕事をめんどろがらないでやろう。

家庭での学習を習慣化するために・・・

学力アップは規則正しい生活から

○早寝・早起き 朝食ごはん 朝うんち

各学年で付けたい力のめやす

習慣づけの1年生

- ① ひらがな・カタカナの清音が読めて書ける。
- ② 助詞(て・に・を・は)を適切に使って文章が書ける。
- ③ たし算・ひき算ができる。
- ④ 80字の配当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
- ⑤ 鉛筆を正しく持って文字が書ける。

分岐点を乗り越える3年生

- ① 200字の配当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
- ② 短い詩が暗唱できる。
- ③ 簡単なことわざを知っている。
- ④ 主語と述語の意味がわかる。
- ⑤ わり算ができる。
- ⑥ はかりを使って重さがよめる。
- ⑦ 方位がわかる。
- ⑧ 地図記号がわかる。

学力の差がつく5年生

- ① 185字の配当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
- ② 今まで習った漢字を使った熟語の8割が書ける。
- ③ 小数のかけ算・わり算ができる。
- ④ 分母が同じ分数のたし算・ひき算ができる。
- ⑤ 割合・百分率を使った問題が解ける。
- ⑥ パソコンでローマ字入力ができる。
- ⑦ 47都道府県の位置がわかり、正しく書ける。

逃げない子にする2年生

- ① 160字の配当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
- ② 順序よくお話をすることができる。
- ③ 九九がすらすら言える。
- ④ 定規を使って筆算をきれいに書きながら計算できる。
- ⑤ 決められた長さの直線が正しく描ける
- ⑥ 時間と時刻が求められる。

「10歳の壁」を破る4年生

- ① 200字の配当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
- ② 文と文のつながりを考えながら、指示語や接続語を使う。
- ③ 国語辞典・漢字辞典を正しく使える。
- ④ わり算の筆算ができる。
- ⑤ 倍を使った文章題が正しく解ける。
- ⑥ 分度器を使って正しく角度を測ったり描いたりできる。
- ⑦ 地図帳を使って見知らぬ場所や地名が調べられる。

中学校生活に希望が持てる6年生

- ① 小学校で習得すべき漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。(6年生は181字)
- ② 小学校で習った漢字を使った熟語の8割を正しく書ける。
- ③ 歴史に残る古文のいくつかをふれ、暗唱できる。
- ④ 分数のたし・ひき・かけ・わり算ができる。
- ⑤ 世界の主な国々の位置を正しく示せる。
- ⑥ 理科の実験道具の正しい扱い方を知っている。
- ⑦ パソコンで速くローマ字入力ができる。

家庭での援助のお願い

本校の全国学力調査、県の学力状況調査などの結果を見ると、一定の向上は見られるものの学習習慣は未定着傾向にあるようです。子ども達が勉強する環境を家庭でも作るようご協力をお願いします。

● 低学年

- 学習を始める時、テレビなどを視ない場所を確保してください。
- 勉強をする場の整理整頓をさせましょう。
- 学校からの連絡やお便り、明日の授業などを子どもと一緒に確かめることが大切です。
- 学習時間を決めさせましょう。(めやす30分)
- 家庭学習をする時は近くにいてあげてください。
- まずは、毎日宿題をやりきらせることを続けさせましょう。
- 一緒に買い物をしたり、時計をよんだりしながら、子どもの生活経験を増やしましょう。
- 毎日できるお手伝いを決め実行させましょう。

● 中学年

- 家族のあたたかい助言や励ましの言葉でやる気を起こしたり、宿題や持ち物を点検したりするなどの手助けが必要です。徐々に自分でできるように支援してください。
- 自ら机に向かう姿勢を育て、集中して取り組む習慣を付けさせることが重要です。
- 学習をする前に、学習する場所の整理整頓を行い、自分で今日の宿題を確認させ必ずやりきらせましょう。学校からのお便りなどを親に手渡す習慣を付けさせましょう。
- 社会や理科で勉強する地域社会の文化や産業、自然等に触れる体験をさせましょう。

● 高学年

- 考える力が大人並みになり時には大人への反抗心も見られるようになります。
- 「やればできる」という気持ちをもたせ、子どもの自尊感情を育てるようにほめたり励ましたりすることが大切です。
- 家族の一員として、手伝いや役割を決め、家庭科などで学習した内容を生活の中で実践したり、生かしたりすることができるようにさせましょう。
- 学習する場所を整理とし、計画を立てて学習が進められるようにさせましょう。